

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	電子共役系有機構造体の創製と機能開発	研究代表者名	檜山 為次郎
-------	--------------------	--------	--------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア 高い
- イ やや高い
- ウ やや低い
- エ 低い

意見：
新しい共役電子系の構築は機能性物質科学の基盤である。本研究は引き続き推進すべきである。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア 予定以上に進展している
- イ 概ね予定どおり進展している
- ウ やや遅れている
- エ 遅れている

意見：
電子共役系の合成・構築、集積化、機能評価を目的とする研究が着実に進展している。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア 研究経費
- イ 設 備
- ウ 組 織
- エ そ の 他

意見：
特に問題ない。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア 期待以上の成果をあげている
- イ 概ね期待された成果をあげている
- ウ 期待された成果をあげつつある
- エ 期待された成果はあがっていない

意見：
独自に開発した反応を利用して発光性分子群や液晶性分子などに成果をあげている。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア () 有機的に連携が保たれている

イ (×) あまり有機的に連携が保たれていない

ウ () その他

意見：
合成・構築、集積化、機能評価、それぞれのチームからは優れた成果が得られている。今後さらに有機的な連携に期待したい。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ () あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ () その他

意見：
特に問題ない。

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

機能性物質科学の基盤である電子共役系の合成・構築、集積化、機能評価を目的とする研究が順調に進展している。有機合成化学の第一人者を擁していることがこのチームの特徴であり、今後も新しい機能性物質の創製に成果を期待したい。研究目的が新規機能材料の開発であるが、成果を実用につなげるような連携を強化することも望まれる。